

終了報告書<短期プログラム(3か月未満)用>

報告年月日 2018 年 11 月 2 日

留学プログラム名	CAMPUS Asia Program		
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	物質理工学院		
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	応用化学系 応用化学コース		
卒業予定	2019 年 3 月	帰国時の学年	修士 2年
留学先国	大韓民国		
留学先大学等	KAIST		
留学期間	プログラム期間:	2018 年 10 月 3 日 ~ 2018 年 11 月 2 日	
	実際滞在期間:	2018 年 10 月 3 日 ~ 2018 年 11 月 2 日	
留学中に受給した 奨学金	受給の有無:	有	奨学金名称: Korean Ministry of Education (MOE)
	種別:	給付	

① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

- ・参加プログラム: CAMPUS Asia Program
- ・受け入れ期間: KAIST(Korean Advanced Institute of Science and Technology)

② 留学前の準備

東工大の指導教員である原正彦教授に教えて頂き、このプログラムの存在を知った。また、私の研究室にも KAIST に留学した学生がいたので、話を聞き参考にしていた。

最初、希望していた研究室とは異なる研究室となったため、留学先の研究室の教授にコンタクトするのが遅くなってしまった。また、留学前に送ったメールで行いたい実験を教授に伝えていたが、実際に研究室に行くとその研究はできず他の研究となった。したがって、事前に伝える際に、いくつか異なる分野で行いたい実験を提示しておくとういこと感じた。

ビザ取得に関しては、東工大の自動発券機で発行する在学証明書と証明写真以外は、CAMPUS Asia の方が用意して下さるので、その二つを事前に自分で余裕を持って用意しておくとういこと良い。KAIST から VISA 取得に必要な書類が送られてくるのがぎりぎりの場合がある。

③ 留学中の活動及び感想

以前に KAIST に留学していた東工大の友人に KAIST の友人を紹介してもらい、研究室以外にも交流を持てたのが良かった。また、週末はソウルなどの観光地に行き、平日は研究をして週末は観光地を巡って充実した日々を送っていた。

CAMPUS Asia のワークショップもあり、韓国、中国、日本の学生と3国の関係・問題やより交流を増やすにはどうすべきかなどを英語で討論したのも良い経験となった。KAIST 以外の大学に通う学生とも友達となり、国際的な交流ができたと思う。そのプログラムのあとは、何人かでサムギョプサルやチヂミを食べながらマッコリやソジュを飲み、韓国の食事を楽しんだ。



④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

英語を使用して他国の人と会話をしようとする積極性が向上したと思う。東工大に入った当初、自分が留学をするということはまったく考えていなかったし、苦手意識があったため英語を日常生活で使うことも避けていた。しかし、留学生のチューターを担ってから徐々に自分の中で英語に対する苦手意識や恥ずかしさというものが払しょくされ、他国の人と話せることで広がる交流に魅力を感じるようになった。もともと韓国の文化や音楽、食べ物がとても好きだったため、韓国に留学し研究をしながら、多くの人々と会話を行うことで自分の知らない韓国の文化や食べ物を沢山知ることができ、本当に良い経験ができたと思っている。

自分の英語力が足りず、会話に詰まることもあったが、それでも自分が話そうとすれば相手も聞こうとしてくれて、日本と韓国に関するいろいろな情報を会話によって交換できたこと、そして多くの人と仲良くなれたことがとても良かったと思う。

⑤ 留学費用

渡航費：東工大の CAMPUS Asia より支給して頂いた。

保険料：実費(14,000 円程度)

奨学金：Korean Ministry of Education (MOE)より 90,000 円を支給して頂いた。この中から、生活費や居住費を出した。

⑥ 留学先での住居

寮：二人用の部屋だったが、ルームメイトがおらず一人で部屋を利用することができた。

⑦ 留学先での語学状況

留学期間中は英語を使用。TOEIC は 635 点しかなかったのもう少し語彙力があると良いと思った。ただ、日常会話や実験の説明は理解することができた。

日本語を話せる人が何人かいたので、たまに日本語も使っていた。

⑧ 単位認定(互換)

留学中に取得した単位の認定(互換)を東工大で行わない予定。

⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

留学中に英語を沢山利用したが、まだまだ足りない部分や自分の言いたいことが言い表せないこともあった。今後は、TOEIC などのテストも受けつつ、自分の意見を英語でしっかりと伝えられるように、話す訓練も行いたい。幸い、東工大の研究室には留学生が何人かいるため、積極的に普段から会話を行っていきたいと思った。

また、KAIST の学生は集中力や考える能力が高いと感じた。他人のプレゼンテーションを聞いて多くの人が質問する姿や、研究室で解析に取り組む姿勢に刺激を受けたので、自分の研究もより力を入れていきたいと感じた。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

奨学金が残り 1 週間という時期にようやく取得することができた。日本円を銀行で両替することも可能だが、レートが悪いのでソウルなどの都市部で両替を行っていた。その KRW が足りなくなることもしばしばあり、困ることもあった。普段は全てクレジットカードで支払いができるが、研究室の人がまとめてご飯の代金を支払った際の返金や、電子マネーへのチャージなど、KRW が必要となる場面も何度かあった。

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

私は、1 カ月という短い期間での留学だったけれども、本当に充実して楽しい時間を過ごすことができたので、たとえ短かったとしても、このチャンスを生かして絶対に留学に行くべきだと思った。日本より進んだ文化や他国のキャンパスなど、違うところを沢山見つけてその違いを楽しんだり、苦しんだりすべてが良い経験になると思う。ただ、できれば 3 か月くらい滞在できるとより研究や授業、学校生活を有意義なものにできるかと思う。

また、研究室に所属するにしても授業を受けるにしても、友達がいると安心できるし、楽しい生活を送れると思う。だから、事前に留学に行った先輩や友人にコンタクトを取り、先方の知り合いを紹介してもらおうとよいと思った。